

## I. 2020年3月期 第2四半期 決算概要



執行役員  
財務部長  
山田 龍彦

東海旅客鉄道株式会社  
2019年10月29日

# 損益計算書（単体）

（億円）

	2019年3月期 2Q累計 A	2020年3月期 2Q累計 B	増減 (B-A)	主な増減要因
営業収益 (運輸収入)	7,270 (6,932)	7,512 (7,169)	+242 (+236)	新幹線+214、在来線+21
営業費	3,535	3,612	+76	
人件費	904	880	△23	退職給付費用の減
物件費	1,491	1,565	+73	
動力費	210	225	+15	電気料金の増
修繕費	403	430	+26	技術開発費の増、車両修繕費の増
業務費	877	910	+32	広告宣伝費の増、委託費の増
租税公課	208	212	+4	
減価償却費	930	953	+22	車両・地上設備等
営業利益	3,734	3,900	+165	
経常利益	3,339	3,513	+173	
四半期純利益	2,346	2,466	+119	

# 損益計算書（連結）

（億円）

	2019年3月期 2Q累計 A	2020年3月期 2Q累計 B	増減 (B-A)
営業収益	9,181	9,556	+374
営業費	5,271	5,487	+216
営業利益	3,909	4,068	+158
営業外損益	△391	△376	+14
経常利益	3,518	3,692	+173
親会社株主に帰属 する四半期純利益	2,447	2,575	+128

## セグメント情報 (連結)

(億円)

	2019年3月期 2Q累計 A	2020年3月期 2Q累計 B	増減 (B-A)	主な増減要因
営業収益	9,181	9,556	+374	
運輸業	7,251	7,484	+233	(+) JR東海(運輸業)
流通業	1,275	1,320	+44	(+) JR東海高島屋、東海キヨスク
不動産業	389	402	+13	(+) JR東海不動産
その他	956	1,119	+163	(+) 日本車両
営業費	5,271	5,487	+216	
営業利益	3,909	4,068	+158	
運輸業	3,716	3,871	+154	(+) JR東海(運輸業)
流通業	43	46	+3	(+) JR東海高島屋、東海キヨスク
不動産業	106	113	+6	(+) JR東海不動産
その他	41	35	△5	(+) 日本車両 (-) JR東海ツアーズ

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。内訳の合計値は営業収益・営業利益と一致しません。

- Ⅱ. 輸送状況
- Ⅲ. 2020年3月期 業績予想
- Ⅳ. 主な施策展開

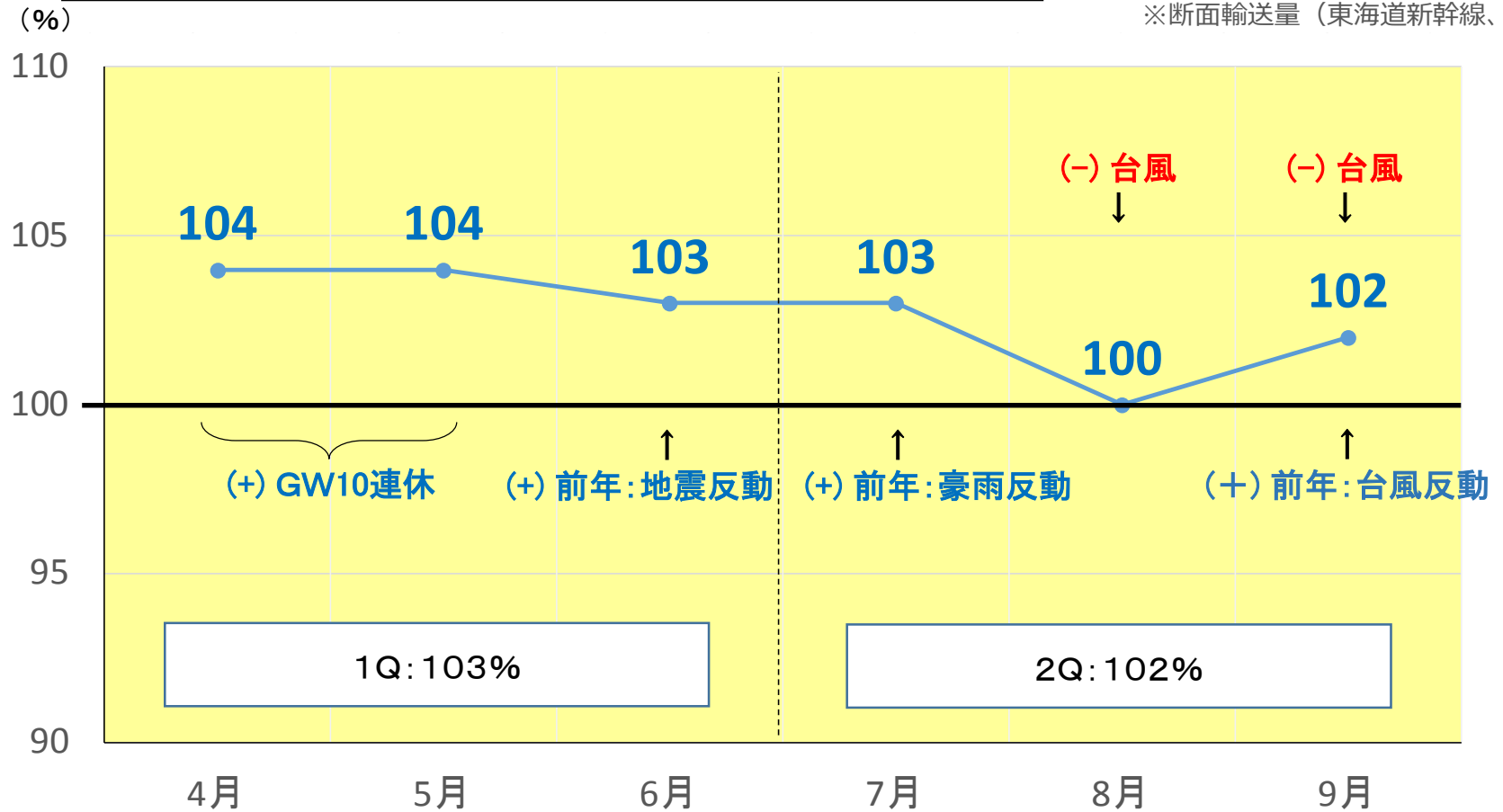


取締役 執行役員  
総合企画本部長  
丹羽 俊介

東海旅客鉄道株式会社  
2019年10月29日

## ビジネス、観光ともにご利用が順調に推移

2019年度 上期 (実績) 前年比 **103 %** ( 平日102%、土休日105% )  
※断面輸送量 (東海道新幹線、東京口)



## 上期の実績等を反映し、通期予想を上方修正

※運輸収入 (新幹線・在来線計)

2019年度 (見通し) 前年比 **101.7 %** ( 上期実績 103.4%、下期予想 前年並み )

## ◆運輸収入

通期予想について、**+140億円の上方修正**を実施

- ・ 上期の運輸収入が前回予想を上回ったことや、台風19号による影響を考慮。

（業績予想）

（億円）

	通期予想	対前年
前回予想	14,070	+103
<b>今回予想</b>	<b>14,210</b>	<b>+243</b>
増減	+140	+140

## ◆費用

通期予想を据え置く

（参考）台風19号の影響

- ・ 台風の影響を最も強く受けた10月12日は7本のみ運転して、ほぼ全面運休
- ・ 運輸収入への影響・・・30億円程度

# 2020年3月期 通期業績予想（単体）の修正

(億円)

	2019年3月期 実績 A	2020年3月期 前回予想 B	2020年3月期 今回予想 C	対 前年実績 (C-A)	対 前回予想 (C-B)
営業収益 (運輸収入)	14,648 (13,966)	14,760 (14,070)	14,900 (14,210)	+251 (+243)	+140 (+140)
営業費	7,971	8,310	8,310	+338	—
人件費	1,797	1,780	1,780	△17	—
物件費	3,817	4,160	4,160	+342	—
動力費	431	460	460	+28	—
修繕費	1,405	1,680	1,680	+274	—
業務費	1,980	2,020	2,020	+39	—
租税公課	422	420	420	△2	—
減価償却費	1,934	1,950	1,950	+15	—
営業利益	6,677	6,450	6,590	△87	+140
経常利益	5,901	5,680	5,820	△81	+140
当期純利益	4,140	3,990	4,080	△60	+90



# 2020年3月期 通期業績予想（連結）の修正

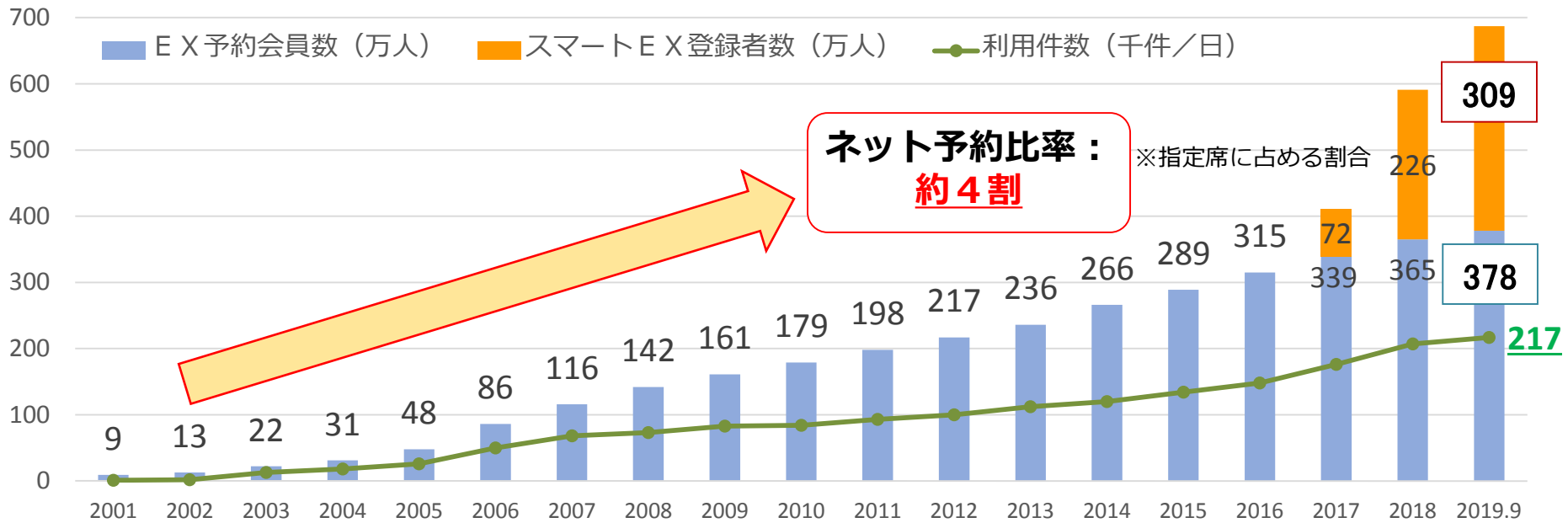
9

		2019年3月期 実績 A	2020年3月期 前回予想 B	2020年3月期 今回予想 C	対 前年実績 (C-A)	対 前回予想 (C-B)
営業収益		18,781	18,910	19,020	+238	+110
	運輸業	14,613	14,710	14,850	+236	+140
	流通業	2,649	2,700	2,690	+40	△10
	不動産業	821	820	810	△11	△10
	その他	2,610	2,630	2,690	+79	+60
営業費		11,683	12,150	12,120	+436	△30
営業利益		7,097	6,760	6,900	△197	+140
	運輸業	6,648	6,400	6,540	△108	+140
	流通業	96	80	80	△16	—
	不動産業	202	200	200	△2	—
	その他	161	90	90	△71	—
営業外損益		△771	△770	△760	+11	+10
経常利益		6,326	5,990	6,140	△186	+150
親会社株主に帰属する 当期純利益		4,387	4,160	4,260	△127	+100

(億円)

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。内訳の合計値は営業収益・営業利益と一致しません。

## 中央新幹線開業に向けて、より便利で効率的な販売体制を目指す



## 所定発車時刻後の列車の予約サービス開始（試行版）

EXアプリで当日の列車を予約済のお客様

EXアプリの  
プッシュ通知を受領



通知をタップしHPへ

Webで遅延情報を確認し、所定発車時刻後の列車の予約を検討



HPの運行情報

- (\*1) 所定発車時刻後の列車の予約は、大幅な遅延が発生した場合のみ可能
- (\*2) 当日の列車を既に予約済の場合は、予約を先に払戻（手数料無し）した後、新規に予約することで列車の変更が可能

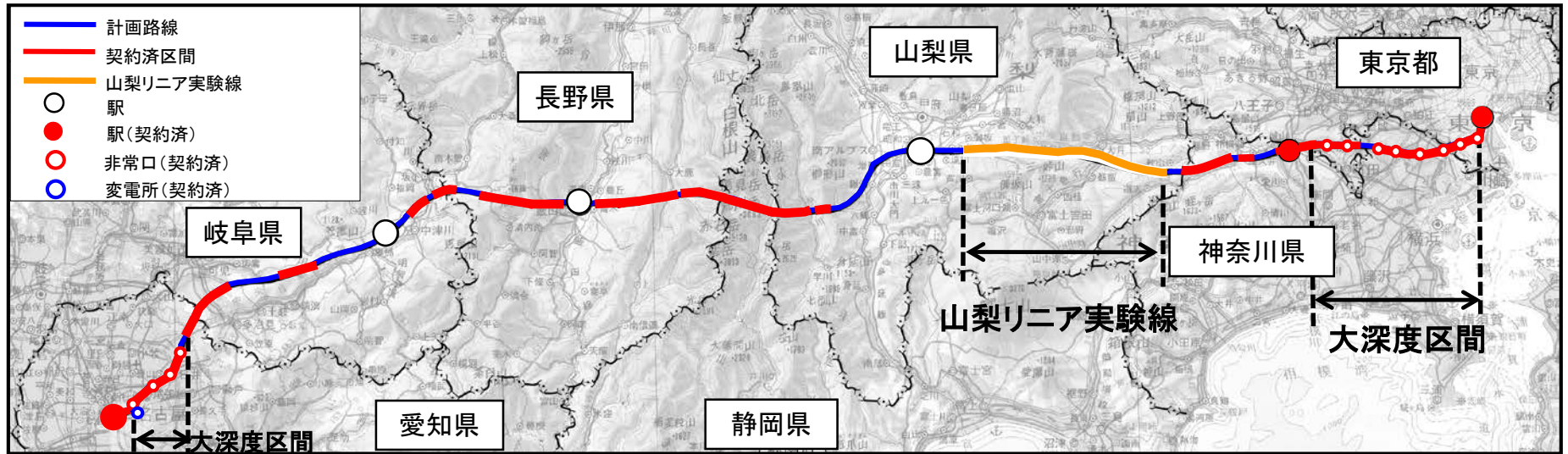
EXアプリで  
列車予約(\*)



乗車



## 本体工事契約状況



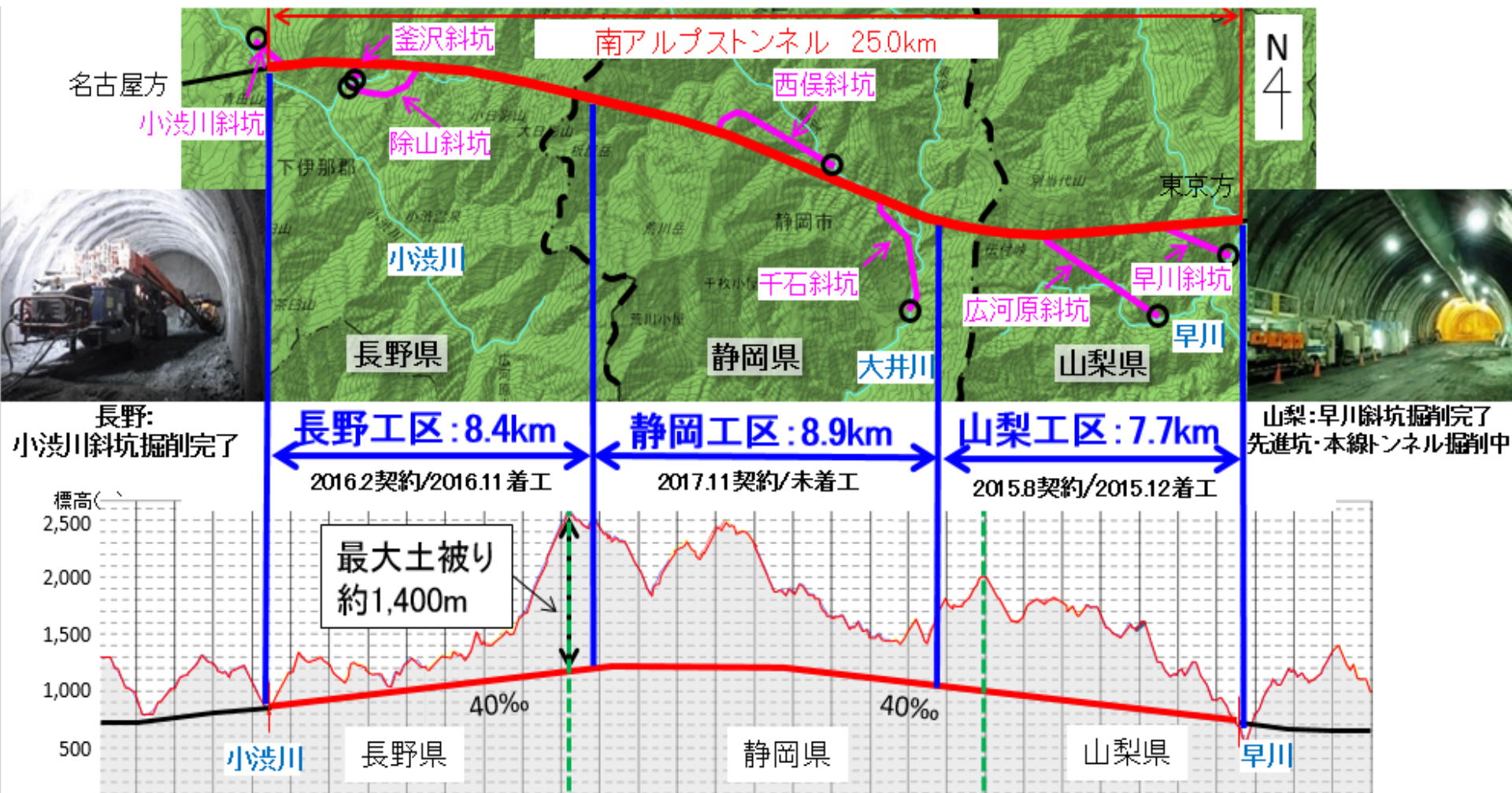
※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の100万分の1日本を複製したものです。(承認番号 平25情複、第310号)  
 ※本体工事契約区間等は概ねの位置を示したものです。

## 最近の主な締結契約

- シールドトンネル
  - ・2019.1 第一首都圏T (梶ヶ谷工区)
  - ・2019.4 第一首都圏T (小野路工区)
  - ・2019.7 第一中京圏T (名城工区)
- 電力設備
  - ・2018.9 名城変電所
- 駅
  - ・2019.4 名古屋駅 (東山線工区)
  - ・2019.6 神奈川県駅 (仮称)

## 設備投資額の推移





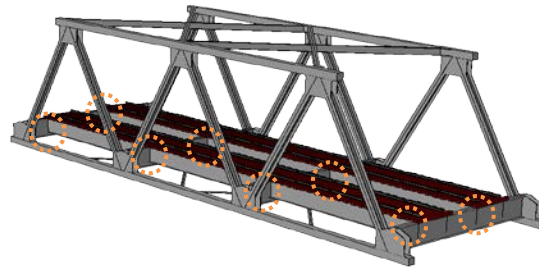
- ・ 環境アセスメントを丁寧に実施し、最終的な環境影響評価書を国交大臣に提出
- ・ 国土交通大臣意見を踏まえ、大井川水資源について、専門家による委員会を設置
- ・ 大井川水資源の保全について、利水者・県に対して繰り返し説明を実施

## ◆工事内容

- ・橋やトンネル等の土木構造物の経年劣化に備え、予防保全の考えに基づき、劣化を抑止する対策を実施し延命化を図る
- ・今回の計画により、鋼橋とトンネルに対する上記対策が完了する見込み

## ◆工事期間

- ・2019～2022年度



## ◆工事費

- ・計1,360億円
- ※このうち、2019年度は30億円を計画している
- ※2019年度の大規模改修工事の合計額は、既発表の340億円に今回発表の30億円を加え、370億円となる

年度	I 期計画		II 期計画			III 期計画
	2013～2015 実績	2016 実績	2017 実績	2018 実績	2019 計画	2019～2022 今回計画
投資実績・計画	753	340	363	361	340	1,360 ※うち、2019年度実施分 30億円
うち、P/L計上分	506	233	246	249	233	未定 ※2019年度実施分 19億円

本資料に記載されている将来の計画や見込み数値等は、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。潜在的なリスクや不確実性の例としては、経済動向や事業環境、消費動向、当社および子会社における他社との競合状況、法律や規制等の変更等が挙げられます。

# (参考) 主な子会社の実績、業績予想 (連結修正前)

## ○実績 (2019年10月28日現在)

(億円)

	営業収益			営業利益			経常利益		
	2018 2Q 実績	2019 2Q 実績	前期比	2018 2Q 実績	2019 2Q 実績	前期比	2018 2Q 実績	2019 2Q 実績	前期比
高島屋	682	692	101.5%	20	22	111.2%	21	23	110.8%
JRセントラルビル	159	161	101.8%	30	26	88.5%	29	25	88.2%
JR東海ホテルズ	125	128	102.1%	4	4	94.4%	5	5	97.7%
日本車輛製造	339	448	131.9%	30	33	110.3%	33	34	103.9%
				日本車輛製造	当期純利益		32	50	155.7%

## ○業績予想 (2019年10月28日現在)

(億円)

	営業収益				営業利益				経常利益			
	2018 実績	2019 予想 (前回)	2019 予想 (今回)	今回 vs 前回	2018 実績	2019 予想 (前回)	2019 予想 (今回)	今回 vs 前回	2018 実績	2019 予想 (前回)	2019 予想 (今回)	今回 vs 前回
高島屋	1,435	1,416	1,420	100.3%	49	33	33	100.1%	51	35	35	100.1%
JRセントラルビル	325	327	327	100.2%	55	38	38	98.9%	53	35	35	99.2%
JR東海ホテルズ	265	267	267	100.2%	12	10	10	100.1%	14	11	11	101.1%
日本車輛製造	892	850	890	104.7%	79	24	36	150.0%	82	27	39	144.4%
					日本車輛製造	当期純利益		89	25	55	220.0%	

# (参考) 輸送量の推移 (月次利用状況)

◆月次利用状況 Monthly passenger volume

(%)

期間 Period	新幹線 Shinkansen				(参考) 大阪口	在来線 Conventional Railway	
	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	合計 Total		特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area
19/04	104	104	103	104	105	107	102
19/05	104	103	103	104	104	105	99
19/06	103	103	101	103	104	102	99
FY 1Q	104	103	102	103	104	105	100
19/07	103	103	102	103	103	136	105
19/08	100	100	99	100	101	109	98
19/09	102	104	105	102	102	109	106
FY 2Q	102	102	102	102	102	116	103
FY 1H	103	103	102	103	103	110	101



# (参考) 輸送量の推移 (多客期利用状況)

## ◆多客期利用状況 Passenger volume during the peak holiday seasons

### ・ゴールデンウィーク “Golden Week” Holidays

期間 Period	新幹線 Shinkansen				在来線 Conventional Railway	
	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	合計 Total	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area(※)
4/26~5/6	120	118	111	118	124	107

### ・お盆期間 Summer Holidays

期間 Period	新幹線 Shinkansen				在来線 Conventional Railway	
	のぞみ Nozomi	ひかり Hikari	こだま Kodama	合計 Total	特急等 Express	名古屋近郊 Nagoya Area(※)
8/9~8/18	101	101	96	100	101	97

(注) 新幹線・在来線特急等は特定の駅間(のぞみ、ひかり:小田原~静岡、こだま:新横浜~小田原)における月累計断面輸送量の対前年比

在来線名古屋近郊は自動改札集計による乗車人員合計の対前年比。※多客期においては定期外の乗車人員に限る。

Note: The data of the Shinkansen and Express is based on the total passenger volume of each month at certain points

(Nozomi & Hikari → Odawara~Shizuoka, Kodama → Shin-Yokohama~Odawara)

The data of the Nagoya area is based on the passenger ridership of each month counted by automatic ticket gates.

※The data of the Nagoya area regarding the peak holiday seasons is based on the passenger ridership excluding commuter passes.

# (参考) 月次営業概況 (商業施設・ホテル)

## ◆ 商業施設 Commercial Facilities

ジェイアール名古屋タカシマヤ 及び タカシマヤ ゲートタワーモール JR Nagoya Takashimaya and Takashimaya Gate Tower Mall		
期間 Period	売上高合計 2020年2月期 (百万円) Total Sales FY2019: 2019.3~2020.2 (Millions of Yen)	前年同月比 (%) YoY Comparison
19/03	15,276	104.3
19/04	13,046	103.3
19/05	12,360	100.3
19/06	13,646	106.2
19/07	13,369	98.1
19/08	11,933	105.9
19/09	15,935	129.5

## ◆ ホテル Hotels

名古屋マリオットアソシアホテル Nagoya Marriott Associa Hotel		名古屋JRゲートタワーホテル Nagoya JR Gate Tower Hotel		
期間 Period	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.	稼働率 (%) Occupancy Rate	前年同月比 増減 YoY Inc./Dec.
19/04	85.4	-5.0	96.4	2.0
19/05	79.2	-5.4	89.3	-1.2
19/06	75.7	-8.0	91.5	-1.3
19/07	77.2	-5.3	95.6	-0.2
19/08	75.7	-6.7	97.1	0.7
19/09	79.2	-1.5	93.8	0.2

(注) 各月の数値は速報値のため、確定値とは異なる場合がある。

Note: The number for each month comes from a quick estimation, which might differ from the actual results.